

広報

青少年おきたま

第56号

令和8年3月1日



生徒と地域の大人の対話会 (兼) 白鷹町次世代未来ビジョン会議 テーマ: 若者の学びを地域づくりにつなげよう

12月21日(日)、白鷹町中央公民館において、「生徒と地域の大人の対話会」を開催しました。荒砥高校生の探究学習の成果を対話のきっかけとして、各グループで話し合いを深めました。

- ◇ 地域参加機会の継続性を高める制度・仕組みづくりは大人の役割である。
- ◇ 好きなことを通じた集いと学びの場が、地域づくりと若者の将来形成に寄与する。 等々

高校生の意見を受け止め実践につなぐとともに、地域と世界をつなぐ人材育成とそのための環境整備に力を尽くす必要性を共有しました。

山形県は、米有力旅行メディアから「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に選出されました。首都圏とは異なる「別世界のような静けさを保つ場所」であることが、その選出理由です。

「あれが欲しい」「あればいい」といった『ないものねだり』をするのではなく、荒砥高校生の発表に見られるように、「これを残したい」「活かしたい」という『あるものを探し』、それを輝かせていく姿勢こそが、郷土への誇りと愛情を育み、誠実に生きようとする青少年育成の基盤であることを確認することができました。

置賜地区青少年育成連絡協議会



山形県青少年健全育成県民大会

令和七年十月二十六日(日) 荘銀タクト鶴岡

県内の青少年健全育成関係者が一堂に会して、課題の共有を図るとともに、問題解決や実践活動への決意を新たにす「令和7年度山形県青少年健全育成県民大会」が盛大に開催されました。

開会行事の山形県青少年育成県民会議表彰では、青少年育成活動に長年ご尽力された米沢市の鈴木彰一氏と鈴木りの氏を含め10名の方が、また、「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の優秀標語・ポスター表彰では、南陽市立宮内小学校4年小原 縁さんを始め5名の方が受賞されました。

いじめ・非行防止セミナー

◆少年の主張

第64回山形県少年の主張大会で最優秀を受賞した鶴岡市立第二中学校3年の石塚桃心さんが「命の叫びを伝える」と題し、アウシュビッツ強制収容所を訪れた経験を紹介し、「私たちには戦争を繰り返さない責任がある。これからも命の叫び、平和の大切さを伝える人でありたい。」と強く訴えました。

◆事例発表「はぐる大家族会議の今」

平成25・26年度に山形県警の「少年非行防止ネットワーク」の指定を受け

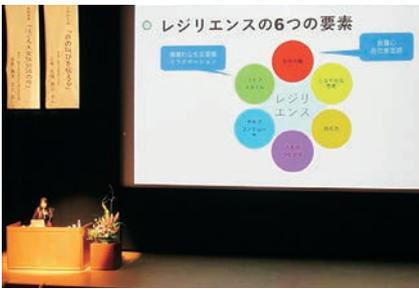
たことを契機に始まった異世代間意見交換会(愛称「はぐる大家族会議」)の取り組みが、コロナ禍でも継続実施され、現在では更に発展した活動を行っている事例が紹介されました。

今後は「アイデア競争から共存社会志向へ」参加範囲の拡大、地域回帰を促す体制整備を目指したいとの決意表明がなされ、大変学ぶことの多い発表となりました。

◆講演「レジリエンスを高めよう」

山形県公認心理師・臨床心理士協会会長 伊藤洋子氏の講演は、多難な社会状況を踏まえ、子どものレジリエンス(回復力)を高める重要性和、地域ぐるみの支援体制構築の必要性に関する講演でした。

特に、親や大人は「結果」より「過程」を重視することが大切であると強調されました。



“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動

令和7年度 置賜地区「いじめ防止」標語

最優秀

パスまわし 言葉も気持ちも つなげよう

南陽市立宮内小学校 四年 小原 縁さん

優秀

なりたいな みんなにやさしく できるばく

米沢市立東部小学校 一年 横山 向琉さん

違う色 輝く個性 虹となる

飯豊町立飯豊中学校 三年 大谷部蒼空さん

入選

認め合おう 相手と私の相違点

高島町立高島中学校 三年 木村空琉実さん

さずつけない みんなだれかの たからもの

川西町立吉島小学校 一年 小形日菜璃さん

大切な みんなの心と 自分の心

長井市立西根小学校 六年 塩田 昂矢さん

受け入れよう 自分も相手も 大切に

小国町立叶水中学校 一年 須貝 深大さん

きみのふつう おしつけないで くつうだよ

白鷹町立東根小学校 三年 新野 蒼真さん

若者の就労支援の現状と課題

講師 中澤 謙一氏
置賜地区青少年育成連絡協議会研修会

9月17日(水)、置賜総合支庁講堂にて第2回置賜地区青少年育成連絡協議会が開催されました。研修会では、株式会社ラ・ヴェリタ代表取締役 中澤謙一氏よりご講演いただきました。講演の中で、国の施策の説明や会社経営の難しさを交えながら、今なぜ若者の就労継続支援が重要なかを詳しく説明していただきました。

ラ・ヴェリタでは、通所者が目標を持ち、自分の変容を自覚することができると、「モデルを真似する」「試行錯誤の経験」「努力の仕方を学ぶ」「成功体験を積む」ことを大切にしているとのことでした。

あきらめかけている人の能力を引き出すとともに、意識の変容を促し、適切な支援を行うことで「人は変わる」という事例に感銘を受けました。

達成への道筋を示し、通所者とともに歩む姿勢は、青少年健全育成に携わる私達にとって大変参考となる考え方であり、学びの多い研修会となりました。



「まちづくり・地域づくりと青少年育成活動」

飯豊町青少年育成町民会議
会長 鈴木 正人



先日、白鷹町で行われた「生徒と地域の大人の対話会」に参加しました。『若者の学びを地域づくりにつなげよう』というテーマに惹かれたのですが、期待どおり大変充実した対話会でした。

各市町にはまちづくりのための

提言

「生徒と地域の大人の関わり」

長井市青少年育成推進員会
会長 鈴木 昌克



長井市の青少年育成推進員は、各地区から選出された9名で活動を行っています。

主な活動内容は「黒獅子まつり」「長井おどり」「水まつり」会場での巡回指導、成人向け図書の実態調査、パトロールマグネットを使用した自家用車による巡回などであり、活動

「総合計画」というものがあると思います。目指す将来の姿を定め、実現するための指針や方策を示した最上位の行政運営計画です。飯豊町では第五次の総合計画が進められており、その柱の一つに「ふるさとを愛する心を育む教育の展開」があります。学校教育でも社会教育でも郷土愛の醸成に努めているのです。

飯豊中学校さんでは、数年前から学校教育目標の中に「郷土を愛し地域に貢献する生徒」を設定。生徒が地域に出て学ぶことを重視してきました。町・地域では、子ども達が地域について学ぶ機会を設けたり活動をサポートしたりしています。

を通して得られた気付きは長井市地域安全推進協議会へ報告し、安全で安心なまちづくりに協力しています。

近年、生徒と地域の大人が語り合う対話会にも参加していますが、生徒たちの話を聞く中で、地域に関わりたいという前向きな思いが強く感じられ、私が学生だった頃とは異なり、地域を良くしたいという意識の高まりに大きな希望を感じました。

同時に、生徒と大人が自然に関わりを持つ場をもっと増やしていく必要性も実感しました。大人が歩み寄り、子どもたちの声を受け止めることで、地域全体の活力はさらに高ま

その成果が着実に現れてきていることを感じます。今年の「青少年育成推進員研修会」で飯豊町から発表したように、中学生が夏祭りや地域の文化祭などのイベントに企画・準備の段階から参加し、地域の人と交流しながら積極的に活動する姿が見られるようになってきたのです。

体験とおして地域の良さを学んだ子ども達は、地域を愛し、地域に貢献しようとする大人へと成長していきます。子ども達が地域の中で活躍できる場を作り支援していくことが、将来のまちづくり・地域づくりに直接つながるものと思います。

と思います。

また、ネットの使用方法についても意見が交わされ、子どもだけに制限を課すのではなく、大人も同じツールを共有し、共により良い使い方を考えていく姿勢が求められていると感じました。大人が変われば子どもも変わるを実践して、模範を示すことで、子どもたちの健全な成長につながると考えます。

今後も地域の大人として、そして推進員として、子どもたちと共に歩む環境づくりに努めていきたいと思っています。